



## 《盛会だった花見会 報告》

～中城嶽彦氏の講演に拍手～

日時：4月8日（土）午後3：00～

会場：犀川河畔「レギャン」会議室

金沢龍馬会花見会は4月8日、犀川河畔「レギャン」会議室で開催しました。参加者は17名。青春の地湧きたぎる志高き男女会員が参加、大いに飲み語り楽しいひと時を過ごしました。

参加者

宇賀/中田俊/佐藤/守山/大坪/吉田/紐野/中城/山崎/朝日/周藤/北川/小幡/中田文/谷（講演のみ）/池田/熊野 計17名の各位でした。

講演は中城嶽彦氏の「龍馬とフランス料理、フランス料理とは何か」、フランス料理の歴史について話されました。

フランス料理の起源はイタリア料理であり、欧州各国王族の国際結婚により進化した料理であることが分かりました。

また中城さんがフランスで銀メダルを獲得した時の苦労話を聞きました。会員各位より切れ間なく質問が出ました。

葡萄酒の品評も要求され分かりやすく解説されました。なお亀山社中のごく近くに草野丈吉が作った日本で最初の西洋料理屋「良林亭」と時代が重なるので龍馬はきっと西洋料理（フランス料理とは少し違うかもしれませんが）を食べたことでしょう。

フランス料理のあとは犀川河畔の桜を見ながら一階のインドネシア料理に移り桜が咲き誇る道路に面し大いに飲み食い皆活発に議論を交わし、いろいろと質問意見が飛び交い更に盛り上がり各会員とグラスを交わし日頃の活動の話などに話の花を咲かせました。

楽しいひと時はあっという間に過ぎ楽しい宴は無事に終了しました。



## 《金沢龍馬会 月見会》

日時：11月18日（土）

場所：一里野温泉「ロアン」

会費：未定

## 《北陸三県交流会》

日時：7月1日（土）午後

場所：福井駅前アオッサ

12時～社中近畿北陸ブロック会議

15時～講演 福井市郷土歴史博物館

館長 角鹿 尚計 氏

演題：福井藩と坂本龍馬～新出の龍馬書簡を中心に

17時～懇親会

## 特報 大政奉還

## 第29回全国龍馬ファンの集い

## 志国高知大会

日時：10月14日（土）15日（日）

14日：13：00～20：45

15日：8：00～17：00

会場：本大会「高知県立県民文化ホール」

[http://kkb-hall.jp/facility/outline\\_orange.html](http://kkb-hall.jp/facility/outline_orange.html)

交流会「ザ・クラウンパレス新阪急高知」

<http://www.crownpalais.jp/kochi/facilities/>

## 【会員のつぶやき】

### “龍馬との出会いと魅力

周藤英将

皆様こんにちは。

私は2014年6月に中川会長にお声をかけていただいて龍馬会に入りました。私の龍馬との出会いは、司馬遼太郎原作の大河ドラマ「花神」でした。

主役なのに野暮ったい大村益次郎と対照的に、夏八木勲のワイルドな龍馬の強い印象は、今でも脳裏に焼き付いています。

次の出会いは加治将一の「龍馬の黒幕」で、司馬作品とは真逆のダークな龍馬像にもまた強い魅力を感じました。

米国トランプ政権誕生に象徴されるように、世界はますます混迷の度合いを深めています。

筋を通しつつ国益の達成を可能にした龍馬の柔軟な発想と行動力が、そんな今だからこそ余計に必要とされるのではないのでしょうか？

そんなこんなを会員の皆様と楽しく学び、考えていきたいと思うところであります。

## まるわかり「龍馬入門講座」⑨

大河ドラマ「龍馬伝」が始まる前、坂本龍馬を紹介する為長崎国際観光コンベンション協会が作ったパワーポイントで今回連載に際し吉田が若干編集しました。(本掲載は金沢龍馬会内部のみです)

**24**、正式に海援隊が発足した直後、海援隊の存立を揺るがす大事件が発生します。1867年4月19日、大洲藩船「いろは丸」を1航海15日間500両の契約で借り入れた海援隊は夜明けを待って長崎を出港しました。



**いろは丸事件**

- 1867年4月23日 大洲藩借り入れの「いろは丸」
- 紀州藩「明光丸」と衝突
- 鞆の浦で最初の談判
- 長崎・聖福寺で再談判
- 「万国公法」による審判
- 「船を沈めたその償いは金を取らずに国を取る」
- 薩摩の五代才助の調停
- 八万三千両の賠償金

立派な御書所蔵 五代才助

順調に航海を続けていたいろは丸が瀬戸内海を航行中、和歌山から長崎へ向かう紀州藩：明光丸と衝突、いろは丸は大破し、自力航行できなくなり、明光丸に曳航されますが積荷もろとも沈没してしまいます。

いろは丸には龍馬以下海援隊士が乗り込んでいましたが、沈没寸前、明光丸に乗り移って無事でした。

日本初の蒸気船同士の衝突事故です。龍馬は盟友に遺言とも思われる手紙を託し、徳川御三家紀州藩を相手に決死の談判に望みます

紀州藩との談判は、最初上陸した鞆の浦(現広島県福山市鞆町)で開始されましたが決裂、明光丸の行先であった長崎で行われることになり、談判は聖福寺で再開されました。事故責任の有無について争われ天下の紀州藩を相手に、龍馬は世論をも巻き込む作戦に出ます。



**「梅花書屋氏」の墓**

近藤長次郎

- 薩長同盟の陰に悲劇
- 盟約違反で非業の死
- 龍馬、不在を嘆く
- 龍馬、墓碑銘書く

近藤長次郎

万国公法による裁判に持ち込みたいと作戦を説明します。

龍馬は世界航海の法的根拠となるこの「万国公法」に準拠して裁判をすすめるために、外国人の意見をまとめて、紀州の味方をしようとした長崎奉行をやりこめます。

丸山界限で「船を沈めたその償いは、金を取らずに国をとる」という歌をはやらせます。

たちまち巷でもうたわれるようになり、長崎の世論は海援隊に傾きました。

おまけに龍馬の後ろには薩・長・土が付いています。

これは国と国との争いにするより金で解決したほうが得策と、明光丸がいろは丸を沈没させたことを認め、薩摩の五代才助の調停によって紀州藩が八万三千両の賠償金を支払うこととなります。後に七万両に減額されます。

龍馬は機転と行動力で全面勝利しました。

「続く」(記：吉田信夫)

## ●年会費納入のお願い

**29年4月から来年3月迄の年会費：**  
**¥3,000円**

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

## 【編集後記】

花見会も盛況のうちに終わり6月は「総会」。会報も第12号が完成、これからも皆さまのご指導ご鞭撻をいただきながら楽しい会報作りを目指したいと思っています。

\*\*\*\*\* 事務局\*\*\*\*\*

## 金沢龍馬会

会長：中川可能作

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

[jitianxinfu@hotmail.com](mailto:jitianxinfu@hotmail.com)

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

[n-toshio@muj.biglobe.ne.jp](mailto:n-toshio@muj.biglobe.ne.jp)

## 金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

